

【秋の叙勲】おめでとうございます

植木正枝さんが受章

さまざまな分野で活躍し、社会貢献した人を表彰する『秋の叙勲』が、11月3日、内閣府から発表され、日野町では植木正枝さん（根雨）が旭日双光章を受章されました。

植木さんは東京で家政を学び、教壇に立つも終戦直後に帰郷。日野産業高校で再び教壇に立ち、家政を教えられました。その後、家業の酒屋を継ぎ、鳥



【受章のことば】

平成25年秋の叙勲には、思いがけない旭日双光章というとても名誉ある章をいただき、ありがたい気持ちで受けとめています。これもひとえに県下各地域の皆さまのご支援、ご協力のたまものと感謝しています。この章を励みに、より一層地域の文化の向上に、また、町づくりに持てる力を注ぐ考えでいます。ありがとうございました。

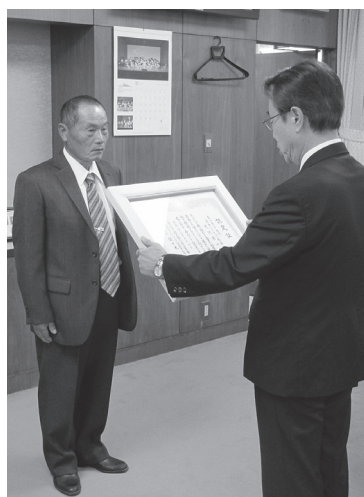
取県商工会婦人部連合会会長や全国商工会女性部連合会副会長などの要職を長きにわたり歴任。1962（昭和37）年に発足した日野町商工会女性部にも当初から参加し、1970（昭和45）年には同部部长に就任されました。今年から同部部长に再び就任。「町が元気になるような取り組みがしたい」と、同部を中心に、町おこしを企画中です。

原木シイタケ栽培ひと筋50年

▼久代宏一さん（黒坂）が平成25年度「森の名手・名人」に認定



▶景山町長に名人認定を報告



▶認定書を受け取る久代さん

50年にわたり、現在も原木シイタケ栽培に取り組む久代宏一さん（黒坂）が、公益社団法人国土緑化推進機構から『平成25年度森の名手・名人』に選ばれました。

これは、同機構が平成14年度から選定しているもので、「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門から優れた技を極め、他の模範となっている達人が選ばれます。久代さんは「森の恵み」部門で選ばれました。

久代さんは「山が好きで続けてきた仕事。特別な技術や難しい資格があるわけではないんだが」と照れ笑い。

また、久代さんは町のシイタケ産業復興を目標した『シイタケマシンの会』を結成したり、シイタケ農家としてインターン就農した廣瀬俊介さん（黒坂）を指導。「後継者ができたのはうれしいが、販路や設備負担など大変なこと多い。地域、行政の応援をお願いします」と今後の取り組みを期待しました。



オシドリさん、待ってたよ

▼オシドリ飛来シーズンを前に、セルプひのとオシドリグループが観察客を迎える準備

11月からのオシドリ観察小屋オープンを前に、観察客を観察小屋で迎えるオシドリグループと、オシドリ資料館と観察小屋駐車場で迎えるセルプひの（田子功司所長）が準備を行いました。

「来てよかった」と
思ってもらえるように

10月18日、オシドリ観察小屋駐車場では、セルプひのの職員と利用者の皆さん、オシドリグループの皆さんが、草取りや駐車場の目印となるかかしを設置。それぞれ近況やオシドリのことを楽しく話しながらおよそ1時間ほど作業し、丁寧に抜かれた草は、ゴミ袋3つ分にも。

また、この日は訪れた観察客が記念撮影できるようにと、大山や金持神社、オシドリが描かれた手作りのパネルも設置しました。田

子所長は「セルプひのでは、駐車場に『ほつとプレス』というバザーを、観察小屋がオープンする11月1日から年末年始を除き、毎日休まず出店します。来られた方が、来てよかったと思ってもらえるよう、お迎えします」と、オシドリの飛来を心待ちしていたとのこと。

駐車場横にはオシドリ資料館があり、飲み物や食事を提供しているセルプひの。おすすめメニューを聞くと「寒い中観察された体を温めてもらおうと、カレーうどんをメニューに加えます。今年はピリリと刺激のある辛さです。皆さんぜひお立ち寄りください」とのことです。

観察客を大切に迎える準備

10月20日には、オシドリグループが観察小屋の掃除やのぼり旗の



手作りのパネルを設置

準備を行いました。「これはどこにあったつけ」「こんなところに名刺があつた」など観察小屋の中では、同グループ会員の弾む笑顔であふれていました。

また、オシドリ観察小屋駐車場では、緑地に赤色で『おしどり』と書かれたのぼり旗を準備しました。

作業を行う同グループの森田順子さんは「すでに200羽が飛来しています。餌となるドングリや古米なども、全国から次々と届きます。観察に訪れる皆さんを大切にお迎えしたいです」と、力強く話しました。

オシドリは、11月から翌年の3月まで、多くの人のやさしさに見守られながら日野町を流れる日野川で過ごします。



観察小屋ではポスターなどの配置を確かめる



広い駐車場に茂る草を丁寧に抜く